

## 書 評・紹 介

若林敬子著

### 『中国の人口問題と社会的現実』

ミネルヴァ書房, 2005年, VI+539pp.

本書は、中国の人口問題について、環境・食糧問題、一人っ子政策、高齢化、民族問題を視点として、中国が現在直面している今日的状況を、世界人口をめぐる諸問題と対比しながらまとめた大書である。著者は中国の人口問題について、一人っ子政策が広く知られるようになる前の1970年代から、研究活動を行っており、現地調査に基づく興味深い研究成果は数多く、日本の中国人口研究者の第一人者といつてよいであろう。

本書は、13章と巻末の人口政策資料から構成される。その章別構成は、第1章「世界の人口爆発とその構図変動」、第2章「世界人口爆発と民族問題」、第3章「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(以降リプロヘルス/ライツと略称)をめぐる」、第4章「中国における人口・環境・食糧問題」、第5章「一人っ子政策の登場から法制化へ」、第6章「人口動態の推移と人口統計」、第7章「一人っ子政策の直面する難題その後」、第8章「経済開放下の人口・労働力移動」、第9章「巨大都市・上海市にみる人口」、第10章「国際人口移動をめぐる中国と日本」、第11章「環境問題における人口抑制の意味」、第12章「人口高齢化と老人扶養・社会保障制度改革」、第13章「少数民族人口事情」である。

第1章から第3章では、世界人口の動向と人口大国、中国とインドとの人口動向の対比、世界の都市化と都市化を抑制してきた中国の状況、世界のイスラム系民族の人口状況、ロシアの人口減少と中国、米国、日本におけるリプロヘルス/ライツ、中絶問題などを取り上げており、多彩な内容を含む。第4章では、中国において生態環境悪化が加速している状況と貧困・開発問題、食糧供給と人口扶養力、世界の食糧供給に与える影響など、中国が直面する重要課題を提示する。第5章から第7章は、一人っ子政策の法制化と出生性比の不均衡、人口動態への影響、さらには家族制度や世帯構造の変化が述べられる。第8章では、中国における都市政策と都市化の長期変動、激増する農村から都市への流動人口(戸籍の移転を伴わない人口移動)と戸籍制度の改革、流動人口子女の教育問題、第9章は経済先進地域上海の外来流動人口の特性—若い年齢構成、3K職業、居住期間の長期化など—が紹介される。第10章では、世界における華人・華僑人口と日本への出国熱など国際人口移動をめぐる諸問題、第11章では、長江山峡建設と移住民の立ち退きの問題、第12章では人口高齢化の加速と家族による老人扶養の問題、第13章は少数民族の人口増加と漢民族との通婚率の状況が統計資料とともに示される。

以上より本書は、中国人口の基本的諸問題のみならず、世界人口、世界の民族問題など中国以外の国の人口問題も含め内容は多岐にわたる。筆者自身もはしがきに「やや網羅的記述である」と述べているが、まさに中国人口問題の百科事典の感がする。本書には随所に筆者の現地レポートとともに現地の人口や環境問題に関するポスター、少数民族の人々の写真などが掲載されており、興味深いものとなっている。中国のみならず世界の各地への現地調査に基づく研究は貴重であり、多くの参考文献は、今後中国研究を志すものにとっても有用である。現在中国が直面している就業、失業問題なども人口問題として取り上げるべき重要課題であるが、本書に取り上げられていないのが残念である。

(早瀬保子/元日本貿易振興機構アジア経済研究所)